

総合的な学習の時間の実践

俱知安町

総合的な学習
4年

雪の町俱知安という地域のよさを生かして

俱知安発「雪のプロフェッショナル！」

<http://www.fan.hi-ho.ne.jp/douseiren/>

この指導案は、上記のHPよりダウンロードすることができます



北国の子どもたちにとって、雪は遊びの宝物です。しかし農家の方にとってはどうでしょう。しかしその雪を生かしての農業が、近年脚光を浴び始めています。そこで、子どもたちが雪とかかわる人を調べたり、自らかかわったりすることで、町や雪のよさ、またそれらに携わる人々の努力や知恵などの素晴らしいところに気付かせていきました。北国に生きる人々のたくましさを子どもたちが実感していました。

学習活動の流れ（30時間）

雪のイメージは？（4）

- ・雪のイメージを話し合おう
- ・あまり好かれていないなあ
- ・雪にかかわるすてきな人がいるんだ

雪のプロについて調べよう！（14）

- ・他にも雪にかかわるすてきな人はいないかな
- ・直接話を聞こう
- ・アンケートをとろう
- ・町の広報誌やホームページを見てみよう
- ・中間報告会でお互いの活動を交流しよう

調べたことをまとめよう（12）

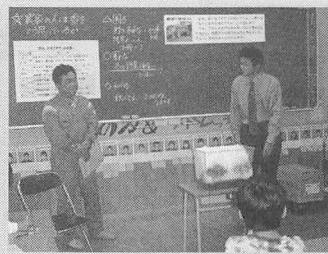
- ・集めた情報をまとめよう
- ・クラスで冊子をつくろう
- ・読んでもらうにはどうしたらいいかな

越冬キャベツ農家の人々との出会いをきっかけに、雪と人のつながりに目を向けさせました。

友達の活動の様子を紹介する場面やスペースを設定することで、互いに活動を高め合う機会を作りました。

活動のゴールを設定することで学習の見通しを持たせ、意欲を高めました。

ニセコの名前を知っている方は多いでしょう。日本有数の豪雪地域の俱知安。半年近くも畠を覆ってしまう雪を逆に生かした町づくりにかかる人との出会いから、人々の努力と工夫を発見していきます。



ゲストティーチャーと

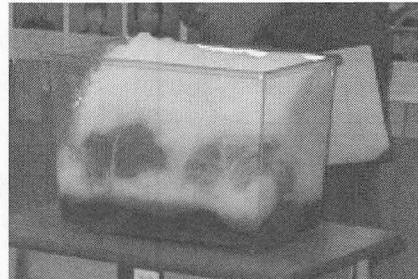
教材・活動の Point!

1. 驚きをスタートに

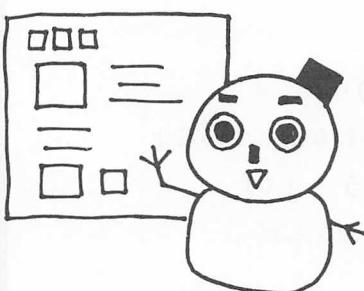
雪解けが待ち遠しいはずの農家が、雪を利用する農家だった……越冬キャベツ農家の方との出会いは、子どもたちに大きな驚きを与えました。このことから、雪に関わる人たちへのイメージが広がり、一人ひとりの課題づくりに発展していきました。

2. 直接食べてみる体験から

越冬キャベツを掘りに行ったり、実際に糖度が増したキャベツを食べたりするという直接体験で、諸感覚を使った気付きを生むことができました。時期が合わないときには、水槽を利用して似たような装置を作り、子どものイメージをより具体的にしました。



3. 活動のゴールを明確にして



学習のゴールとして、ミニブックを作りました。ミニブックを作ることで、子どもたちは、相手意識をもって様々な工夫をしていました。表現力の向上につながったのです。また配布の時にもいろいろな人とかかわりをもつことができました。